

## 「イントラネット」とは

インターネットが注目を浴び、実体がなかなか掴めないうちに、インターネットは世界中の情報をみることが出来るものから、インターネットを活用しようとし始めている。その中で「イントラネット」という言葉が雑誌を賑わせ、まだ十分に普及しているとは言えない「クライアント/サーバシステム」の時代が終わりを告げ、「イントラネット」がこれからの情報システムの中心となるような表現をするものすらで始めている。では、話題の中心である「イントラネット」とはなんだろうか。

「イントラネット ( I n t r a n e t ) 」とは、「内部のネットワーク」といった意味で、WWWなどのインターネット技術を応用し、企業内や企業間での情報の共有に利用しようとするものです。インターネットの一面は、WWWサーバなどをみる「ネットサーフィン」に代表される情報の提供、入手への利用で、一般の「インターネットカフェ」でアクセスする場合はほとんどがこの利用方法です。それに対して、イントラネットの場合はインターネットをいろいろな情報源を活用するための伝送路として利用しようとするもので、既存の情報系システムをWWWなどのインターネットのシステムと有機的に統合活用しようとするものです。

イントラネットの登場してきた背景としては、これまでのクライアントサーバシステム（以下C/Sシステム）の問題点が有ります。C/Sシステムは、それまでのホスト集中システムに比べてコストパフォーマンスが高いなどの利点から、ダウンサイジングの原動力として普及してきていましたが、大量のクライアントで構成されたシステムの場合システム環境が多種多様化するためすべてのクライアントのアプリケーションを保守することは困難となっています。それに対してイントラネットの場合、j a v aなどのWWWサーバに対応した言語を使ってシステムを構築することによって、必要なときに必要なプログラムをWWWサーバからダウンロードして使うことができるようになります。つまり、システムプログラムはこのパソコンにインストールするわけではなく、必要なプログラム、データをインターネットを通じて利用しようとするのが「イントラネット」の考え方で、データベース機能以外にもビデオ・オン・デマンドやテレビ会議の機能までをモジュール化することによって組み合わせて利用しようとしています。

これまでクローズされていた企業データは、インターネットのブームにより社員個人データなどのクローズすべきデータ以外はどんどんオープンされてきています。新製品情報ばかりではなく、価格情報、一部在庫情報などその製品を利用しようとするものが必要なときに活用できるような環境がインターネット上に構築されようとしています。これまで定期的に発表されてきた公的な情報（経済白書などの各白書、株価動向、ニュースなど）もインターネット上に提供されることによって、世界的な規模でリアルタイム性が高まってきています。その中で「イントラネット」は、これからの情報システムを考える上で重要な意味をもつものであるということが出来るのではないのでしょうか。

(情報誌トピックス)

○ 経産誌 3月18日号

特集 ユーザを救う「情報マネジャ」

部門システムの開発・運用を一手に担う

→情報マネジャは情報システム部門ではなく、各部門でシステムの開発・運用や教育を行なう専門担当で、大量の端末を導入する場合に欠かせない存在になると考えられている。

ホットニュース Office互換のJavaソフトをオラクルが年内出荷へ

→オラクルの提唱する500ドルネットワークコンピュータの普及を後押しするもので、インターネットに接続して使用する。

テクノロジーの宝庫 人工網膜チップ動作認識システム

コンピュータの“目”で把握

→三菱電機先端技術総合研究所

・ 経産誌 3月25日号

特集 javaがMicrosoft社を脅かす

→静的な情報閲覧メディアであったWWWサーバを動的な情報処理システムに変えようとするjavaに対して、MSはVBSで追いかけてやろうとするが、稼動環境とセキュリティでjavaが一步前にいっている

特集 インターネット時代ねらう次世代暗号技術

→インターネットでの電子商取引によって暗号技術が注目を浴びている

→三菱電機の暗号アルゴリズム「MISTY」が線形解読法として取り上げられている

・ 経産誌 3月25日号

特集 始まったWindows95導入

3.1からの移行で問題点明らかに

→Win95の発表から3ヶ月で企業における大量導入が始まったが、既存ソフトの動作の問題などから導入に慎重な企業やWinNTへ移行する企業もある。また、ネットワークOSのNT採用が進んでいる。

○ 経産誌 4月号

特集 WWWがOSになる日

→インターネットの爆発的な普及によってWWWブラウザ高機能化を遂げ、これからのアプリケーションはWWW抜きでは語られなくなってきている。WWWブラウザがWin95などのOSに取って代わる可能性がある。

特別レポート Java人気沸騰で窮地に立つMicrosoft

→アメリカでは業界がjava一色になっている。ソフトハウスはjava対応に必死になっているが、後手に回ったMicrosoftは窮地に立っている。

○ A S C I I 4月号

特集 パソコン、どれ買えばいいですか？

→最新バイヤーズガイド

a p r i c o t MS540タイプSXが登場

今回の新製品の中でも一番インパクトがあったそうな

特集 Windows 95に王道なし？

→日常よく使うWindows 95の操作方法20について

○ S U P E R A S C I I 4月号

特集 わかる、選ぶ、活かす PCサーバ

→Windows NTをネットワークOSとして使用する場合のNT機能、サーバの機能などの基礎知識。NetWareから移行するには。

製品紹介 P C I S C S Iホストアダプタ7種

→Windows 95/NTへの対応と性能を評価

小中規模LAN向けハブ36機種

→使用用途で考える低価格HUB

○ A S C I I D O S / V 5月号

特集 春のホームPCグランプリ

→ディスプレイ、モデム、サウンドといったホームPCの必須アイテムにスポットをあてて各部門での評価特集

a p r i c o t MS540モデルSXはディスプレイチェックで3位

特別企画 T r i t o n 2のすべて

→高速化、マルチCPUに対応した次世代チップセット

(価格情報)

a p r i c o t MS540は現在価格が1~2万円程度下がってきている模様  
ただし、CRTなしのタイプBXは在庫なしの状態が続いている模様